



ひまわり

発行 学友同窓会ひまわり(宮崎)
編集 発行編集委員会
発行責任者 川越利明
発行日 2026.8.22
第16号

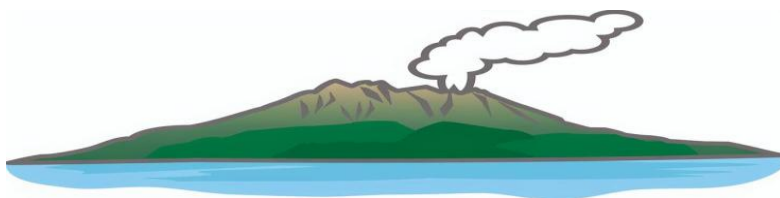


《発刊にあたって》

放送大学宮崎学習センター 学友同窓会ひまわり代表世話人 黒木真

この原稿を書いているのは7月下旬なのですが、本当に毎日暑い日が続いていて、仕事から帰ってエアコンをつけたらすぐに「室外機高温エラー」で止まってしまって、数日後に遮熱カバーをかぶせたのですが次の日も同じでした。帰宅直後は風量を弱く設定して室温が下がるまで扇風機の前で1時間ほど耐えています…。また、紫外線も年々強くなってきている気がしていて、初めて日傘を購入しました。日傘があるのとないのとでは体感温度が全然違うので、もっと早く使えばよかったと思っています。

さて、学友同窓会ひまわりの代表世話人も3年目となりました。放送大学での学習も、昨年2コース目の「情報コース」を卒業して、3つめの「生活と福祉コース」を履修中です。新しいコースに再入学するたびに、学んでみたい興味のある科目はたくさんあるのですが、卒業に必要な2年間で8科目を厳選して選択しています。毎学期この「どの科目を選ぶのか」というワクワク感を味わえて楽しいです。



昨年の11月に、放送大学同窓会連合会の行事の一つで、九州地区で毎年行われている交流会が鹿児島市で開催されました。1年に1度他県の役員の方と話ができる貴重な機会でも、楽しく交流ができました。めったにない他県に宿泊する際の楽しみで、出張で各地を訪れた際に早朝見知らぬ土地をランニングしているのですが、今回も早起きして鴨池公園近くの与次郎ヶ浜長水路を走ってみました。この長水路は、「桜島への眺望を確保するため、防波堤を高くできない代わりに2重の護岸の間に水路を設けて波の力を弱める」という全国でも珍しい構造だそうです。桜島を横目に楽しく走りましたが、あいにくの天気で桜島からの日の出が見られなかったのが残念です。

今年の個人的なトピックとしては、数年前のこの会報で前世話人代表の柴田さんが四国の八十八か所参りのことを書いていて、いつか行ってみたいと妻と話していたのですが、5月に最初の一步を踏み出すことができました。88か所の霊場を一度に参るのは日数がかかるので、一国参りと言って四国の4つの県を

一つずつ参る計画にして、まずは徳島県の第1番札所霊山寺から23番薬王寺までを車で巡拝しました。事前に納経帳や白衣、納札を購入して、作法も予習していたけど初めのうちは余裕がなくギクシャクしていましたが、2日めから作法も身についてきて心穏やかにお参りすることができました。次は、また近いうちに高知の24番最御崎寺からのお参りに行く計画を楽しみにしています。



★ ただいま、学び

新田 有香



母が40代後半で資格を取得するという環境で育った私にとって、大人になっても学ぶということは自然なことだった。その母が亡くなり、漠然と何かを得たくて、前々から気になっていた放送大学へ入学する事を決めた。いろんな事を学び、学びを重ねる事の楽しさを感じていた。始めは30代(5年間)で卒業の予定で頑張っていたが、途中体調を崩してしまったりで、気がつけば卒業したのは9年後…。と言うことで、卒業時には母と同じ40代後半。合わせて、学ぶことから離れてしまった私は、心にぽっかりと穴が空いたようになってしまった。その穴を埋められないまま時間が流れていく中で、この歳から母はまた学び、資格を得るために頑張っていたんだ…と思うと、まだ私も何かを得ることが出来るのではないかな？そう思うようになった。

そんな時、姉が掛持ち先である学童保育でパートをしていたのだが現職との兼ね合いの関係で辞めることになり、大泣きしているのを目撃する。理由を聞くと、楽しかったから…と言う。その一言がきっかけで、私は思い出した。高校3年の実習で保育園に行った時、子どもが無邪気でとても元気を貰ったこと。そして、夢は持っていなかったけれど、人の役に立つ仕事がしたいと思っていた事を。そうだ、次の何かは”保育士”になる事かもしれない…。そこから保育士を目指すために必要なことを調べ始めた。すると試験を受験するために必要な資格として、一定の実務経験もしくは大学卒業と記載されているではないか。実務経験がない私でもチャンスがあると知り、嬉しかった。学びを重ねて放送大学を卒業したことが、導いてくれたように感じた。合わせて、受験科目が栄養学や心理学など履修していたものと重なる部分があり、勉強したことが活かされる事もとても嬉しかった。ただいま(！)、勉強に励む日々が続いている。今年10月受験予定で、スタートラインに立ったばかりだ。また学びを重ね続けられる喜びを感じながら、合格を目指して頑張りたいと思う。



★ 私の挑戦

上山 恭代



自分でお米を作ってみたいと思ったのは一昨年前。多方面に興味を持つ私は、知り合いの農家のご主人に「お米って私でも作れますか？田んぼを借りることはできます

か？」と直談判した。ご主人曰く「やる気さえあれば何でもできるが！ 田んぼは作ればある。」と言った。(作ればある...どうということだろう...)一抹の不安がよぎった。実際の土地を確認しに行くと、周りはたんぼだが、そこだけ低木や葎のような植物が生い茂っていた。聞けば10年以上放置されているとのこと。ここを一から田んぼにするにはどれくらいの時間と労力が必要だろうか。そこに大きな不安はあったが、これは面白い経験をさせてもらえる！ 人生においてまたとない体験をするチャンスだった。2ヶ月後、そこは小さいながらも田んぼらしい姿になった。山からの湧き水を利用する為に、土で埋もれていた水路を復活させた。私の心は弾んでいた。子供や孫たちに安心安全なお米を食べさせたくて一念発起したのだから...収穫の日、コンパインに乗る私は、心が躍りワクワクが止まらない。自分で作った新米はとんでもなく甘かった。嬉しすぎて、あちらこちらにお裾分けしたら、みんなが笑顔になった。指導して下さったご主人や協力して下さった方々に感謝、感謝。そして2年目の今年、水不足が深刻だが、収穫が待ち遠しい。とりあえず一步を踏み入れて挑戦してみることは私の生き甲斐になっている。知ることの楽しさを味わわせてくれた放送大学に入学したのは18年前。そこから私の挑戦が始まったのだ。



◆令和8年度世話人一覧◆

今年度から担当を市町村単位から3ブロック制に変更いたしました。

【県北】

黒木真(代表)

柴田 俊一

【県央】

齋藤義弘(監査)

上山恭代

村中日登美

岡 智江

【県南】

倉本正(顧問)

久留美智代

新田有香

川越利明(会報)

-++編集後記++-

今年度から会報担当となりました川越です。6月中に本会報を発行したかったのですが、自らのPCが故障し、新しいものをすぐに購入しましたが、半導体不足のあおりを受けて納品されたのが、7月下旬。急いでの編集でお届けしております。私自身も4月から転勤を伴う仕事に再就職いつまで宮崎にいられるかわかりませんが、今後も会報発行の継続目標にしていきたいと思います。どうぞ、よろしくお願いいたします。[川越]

◎原稿大募集!!!!!!

会報に掲載する原稿(400字～800字)・ポエム・俳句・川柳・写真などを募集しています。

↓↓↓下記↓↓↓までご送付ください。

hyuga.aoi.miyazaki@gmail.com

送付の際は一般メールと区別するため、タイトルの前に【寄稿】と入れてくださいますようお願いいたします。